

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
銀行預金・定額預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小 計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
国際会議準備金	11,000,000	0	0	11,000,000
小 計	11,000,000	0	0	11,000,000
合 計	31,000,000	0	0	31,000,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
銀行預金・定額預金	20,000,000	(0)	(20,000,000)	(0)
小 計	20,000,000	(0)	(20,000,000)	(0)
特定資産				
国際会議準備金	11,000,000	(0)	(11,000,000)	(0)
小 計	11,000,000	(0)	(11,000,000)	(0)
合 計	31,000,000	(0)	(31,000,000)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
該当事項はございません。

5. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高
債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおり
である。

(単位：円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
未収金	0	0	0
合 計	0	0	0

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額の残高
該当事項はございません。

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、未払金、前受金、前受会費、預り金及び未払法人税等を含めている。

なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳 (単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	22,555,344	25,623,175
振替預金(会費)	7,699,792	9,023,979
振替預金	3,536,667	3,548,564
普通預金	11,318,885	13,050,632
前払金	18,000	18,000
前払費用	8,807	0
合 計	22,582,151	25,641,175
未払金	192,477	88,975
前受金	14,000	9,000
前受会費	3,730,300	3,894,700
預り金	3,357	10,406
仮受金	0	238,700
未払法人税等	70,000	70,000
合 計	4,010,134	4,311,781
次期繰越収支差額	18,572,017	21,329,394

3. 予算額と決算額との差異について

- (1) 学術集会事業収入のうちシンポジウム収入において、決算は予算より増額となった。これは、講習会収入とビジュアルゼーションワークショップ収入が予算額よりも多かった事に起因する。講習会収入が増額になった一因は、参加費の値上げによるところもあると考えられる。
- (2) 一方で、シンポジウム論文集・プログラム収入が予算と比較して50万円ほど少ない結果になり、広告料収入は厳しい結果になっている。
- (3) 学術集会等事業費支出のうちシンポジウム支出において、決算は予算より減少した。これは、新型コロナウイルス感染防止のためオンライン開催となり、会場費等の支出が減少したことの理由による。

- (4) 学会誌等発行事業費支出は、予算に対して 80 万円以上の削減が出来ているが、学会誌の発行部数を削減している事やページ数を少し減らしている事も要因の 1 つと考えられる。